山陽小野田市食育推進会議議事録

会議の種類	令和6年度第2回山陽小野田市食育推進会議		
日時	令和6年10月22日(火) 14:30～16:30		
場所	高千帆地域交流センター分館2階		
出席者	山陽小野田市保育協会	今井 梢	(委員)
	山陽小野田市私立幼稚園連盟	勝木 京子	(委員)
	山陽小野田市教育研究会	佐伯 剛	(委員)
	山陽小野田市母子保健推進協議会	高木 理代	(委員)
	山陽小野田市立山口東京理科大学	立花 研	(委員)
	市民代表	富田 輝美	(委員)
	山陽小野田市地球温暖化対策地域協議会	内藤 美恵子	(委員)
	山口県販売協力店連携協議会	西丸 朋子	(委員)
	山陽小野田市食生活改善推進協議会	半矢 幸子	(副会長)
	山口県漁業協同組合	久中 幸子	(委員)
	小野田南高泊干拓農業協同組合	松村 孝子	(委員)
	市民代表	村上 美喜子	(委員)
	宇部フロンティア大学短期大学部	山下 晋平	(会長)
	(出席者数 13人)		
欠席者	(欠席者数 2人)		
	山口県立厚狭高等学校	森 祐子	(委員)
	山陽小野田料飲組合	山本 直仁	(委員)
オブザーバー	山口県宇部健康福祉センター	納屋 早与子	
事務局	福祉部部長 吉岡 忠司	福祉部次長兼高齢福祉課長	尾山 貴子
	福祉部次長兼子育て支援課長 石田 恵子	健康増進課長	山本 玄
	健康増進課技監 大海 弘美	健康増進係長	山本真由実
	健康増進係長(食育担当) 加藤諭香江	健康増進係主任技師	白井 誓栄
食育推進庁内連絡会	市民部次長兼環境課長 山本 満康	学校給食センター所長	吉村 匡史
	学校教育課長 山本 敦士		

<p>会 長</p>	<p>1 開会あいさつ 2 議事 (1) 令和5年度山陽小野田市食育推進事業報告について (資料1について事務局から説明)</p>
<p>事 務 局</p>	<p>資料1について、ご質問、ご意見はあるか。 1点事務局に質問。先程12ページの産業観光バスツアーについて説明があったが、この度はどこを観光する予定だったのか？ 詳細は把握できていないが、市内の生産地を見学する予定だったと聞いている。</p>
<p>委 員</p>	<p>同じく産業観光バスツアーについてだが、以前、参加したいと思ったことがあるが、値段が高かった。これはスポンサーをつけるなどをして、値段を安くすることは難しいのか。そうすると参加者が増えると思う。値段についても大事になる。今後の取り組みの参考にして頂きたい。</p>
<p>会 長</p>	<p>(2) 第2次山陽小野田市食育推進計画最終評価（報告）について (資料2について事務局から説明) 資料2についてご質問、ご意見はあるか。 (特になし)</p>
<p>会 長</p>	<p>(3) 第3次山陽小野田市食育推進計画について ① 令和6年度食育に関する市民意識調査結果について (資料3-1～資料3-4について事務局から説明)</p>
<p>事 務 局</p>	<p>資料3-1～資料3-4についてご質問、ご意見はあるか。 資料3-1～資料3-4について、本日、欠席委員より事前に意見をいただいているので、紹介したい。</p>
<p>(欠席委員)</p>	<p>教室等の取組をしても意識の高い家庭が参加する傾向にあり、学校で取組を行っても意識の低い家庭では課題解決に至らず、家庭によって差があると思う。今回の基礎調査の結果について、回答される方は比較的関心がある方が多いのではないかと。関心の薄い方は回答されていないことも推測されることから、回収されたデータだけで判断することは難しい面もあると思う。このような無関心層へのアプローチについて考えていかないといけないと思う。</p>
<p>(欠席委員)</p>	<p>食育というと子どもを対象とした取組のイメージが大きいが、親となる世代の食育が大切だと思う。親の意識が低いと、食がおなかを満たすだけのものとなってしまって、料理をつくる過程がなくても簡単に食べ物が手に入ってしまう便利な食環境の中で、食べたいものを選択してしまうのではないかと思う。</p>
	<p>また、体重は、見た目でもわかるので気にする人は多いと思うが、減塩となると、関心のない人や知識のない人が、病気の予防のために自分から行動に移すことは難しいのではないかと思う。飲食店としては、減塩に関心のない人も来られるので、減塩メニューも提供し、選択できるようにしていくことで、関心のない人へも情報発信の機会となると思</p>

会長	<p>う。行政が行う周知だけでは、市民が慣れてしまっている部分もあると思うので、飲食店やスーパーと連携し、啓発活動を行うことも効果的ではないかと思う。</p>
事務局	<p>欠席委員の意見で“無関心層”とあった。資料3-2の一番上の項目の食育への関心について、資料1の11ページ食育講演会では約250名の参加との説明があった。食育の関心で有意に課題が見えた男性や18歳未満の子どもがいない2人以上の家族の人等の参加は少なかったのではないかと疑問に思ったが、参加者の内訳はどうか。</p> <p>令和5年度については、前年度の反省を活かして、若い世代にターゲットを絞り、食育イベントとしてワークショップなどを含めた内容にした。令和4年度と比較すると、高校生・大学生・子育て世代の参加が多く参加された。</p>
会長	<p>ワークショップの同時開催など、工夫によって関心層の幅を広げることができたとのこと。この試みをぜひ続けてほしい。</p>
委員	<p>資料3-4の食事のバランスについて、幼稚園・保育園のこと記載してある。ランチョンマットの活用について伺いたい。</p>
会長	<p>ねたろう食育ネットワーク会議で食育ランチョンマットの活用について情報共有している。自分の園では年長児にランチョンマットを活用している。給食が赤・黄・緑のどこに当てはまるかを工夫しながら示している。年中児でも少しずつ意識出来たらと思って教えている。</p>
委員	<p>園独自で応用して活用しているとのこと。食育ランチョンマットを活用することで食事のバランスについても理解を深めていくことができる。第3次山陽小野田市食育推進計画でも継続してもらいたい。</p>
会長	<p>先週のねたろう食育ネットワーク会議で、食育ランチョンマットは色分けがわかりやすく、園や学校の連携が取れているという話になった。給食センターの栄養教諭が来られるなど、小学校でも指導時間が取れている。食事のバランスについては、園や学校で積み重ねているため、今後、数値がよくなると思う。</p>
委員	<p>継続することで今後、数値も変わる。数値が上がらなければ食育ランチョンマットをどう改善していくかという形で進めさせて頂きたい。</p> <p>資料3-1について、成人の回収率が低い。回収率が上がると比較が変わると思う。回収率を上げることが大切と思うがどうか。</p>
事務局	<p>過去の調査と比較して回収率はどうか。</p> <p>令和5年度までに実施していた調査については、無作為抽出による郵送という形ではなく、関係団体に直接依頼をして回答に御協力頂いていたため回収率は高かった。この度の調査の手法は、人口比率に合わせた無作為抽出による郵送での依頼のため回収率は低くなっている。回収率を上げるための工夫としては、紙媒体だけではなくQRコードによるインターネット回答も取り入れた。</p>
委員	<p>調査について、知人が該当した。調査用紙が分厚く、高齢者は読むだけでも苦痛になるとの意見があった。調査内容を簡易にするなどの工夫が大切と思う。</p>

会 長	資料3-2について、たしかに調査項目は多い。青で塗りつぶしている項目など、市独自の調査項目も追加している。市独自の取組ができればと思う。
事 務 局	この度の調査はA3両面1枚としている。同じタイミングで健康づくりに関する市民意識調査を実施しており、内容が幅広いため調査項目が多くなり、おそらくその調査に該当されたと思う。回答のしやすさの工夫も今後していきたい。
会 長	共食について、一人暮らしの高齢者は共食ができていない現状があった。第3次山陽小野田市食育推進計画で取り組んだほうがいいことはあるか。
副 会 長	以前は各校区で会食会などがあったが、新型コロナウイルス感染症を機に共食の機会がなくなり、今も復活が難しいのも現状。主催者も高齢化しているため、自治会の集まり等を活用しながら共食までいかななくても、お茶を飲みながらなど負担のない形で継続していきたい。
会 長	新型コロナウイルス感染症が影響しているとのこと。一度なくなった活動を復活することは努力が必要であるため、先程言われたように、負担のない形での支援を考えていければと思う。
委 員	資料3-2の環境への配慮・食品ロスについて伺いたい。 資料1の13ページを見ると、食べきり協力店の拡大や3010運動の推進など、外食での取組がある。“環境にやさしい農林水産物・食品を選ぶ市民”や“食品ロス”が問題になっていることを知っている市民を増やすにはどうしたらいいと思うか。
委 員	地球温暖化によって野菜が高騰している。地産地消と言われているがお店にも出ていない状況。環境に配慮することは、食べ残しをしない事が基本である。学校でも伝えてほしい。また、旬の食材についても併せて伝えることも大切。
会 長	食品ロスを考えたときに、旬について教えることも大切なので支援、サポートできたらと思う。
委 員	資料3-4の考察に子育て世代というワードがよくでてくる。取組についてご意見を伺いたい。
委 員	子育て世代は、共働きが多く、イベントや講座に参加したくても時間が取れないという声を聞く。また、関心が高い人しか参加せず、聞いてもらいたい人は時間に追われており参加しないという現状がある。その方へのアプローチをどうすればいいかと考えると、園や学校で子どもに伝え、子どもから保護者に発信する方法も1つだと思う。
会 長	私自身子育て世代である。たしかに、子どもが園から情報を持って帰るとよく聞くという実体験もある。園や学校と協力して、子どもから保護者に指導する形も1つの手段と思う。
会 長	本日、食育推進庁内連絡会の方も来られているため1点伺いたい。資料3-2の地産地消の項目で、県の最終値“食品使用率69.1%”とある。併せて、資料1の12ページには提供日数199日とある。食品使用率の算出は可能であるのか。

連絡会委員	給食センターでは、量ではなく、使用した食材を1点として使用率を算出している。どのくらいの品数を使ったか点数計算をしてパーセンテージを算出しているため、量を示すのは難しい。
会 長	県とは算出が異なるということか。
連絡会委員	県とは同じである。品数での使用率となる。
会 長	現在、資料3-2の市の使用率は空欄(一)となっているが、今後数値が入るといった認識でいいのか。
連絡会委員	国に合わせて金額ベースで算出する場合は、数値は入らない。
委 員	ゴミの分別について関心がある。学校での取組はどうか。
委 員	学校全体では市の分別に準じている。また、小学4年生はゴミについて学習する機会がある。
会 長	大学では燃えるゴミとプラスチックは一緒に回収されている。教育機関から家庭への情報提供も必要なので行っていければと思う。
事務局	資料3-2の調理実践は市独自の調査項目である。調理体験をすることで後々の食行動が変わるといったことだと思うが、味噌汁に着目した理由があれば教えて頂きたい。
会 長	野菜摂取が少ない、朝食欠食があるという現状がある。味噌汁を作ることは、だしをとったり、塩分に気をつけたり、野菜摂取など様々な要素が期待できるため、手法として把握した。
委 員	資料1の7ページにレシピコンテストとあるが、汁部門などの取組もあってはいいのではないかと感じた。そうすると市独自の調査項目である味噌汁の設問が生きてくると思う。
委 員	私に関わっている小学校では、5年生が2学期の終わりにご飯を炊いて味噌汁を作るという調理実習を実施している。調査の対象が5年生なので、調査時期が遅ければ、もう少し数値が上がるのではないかと。
会 長	様々な調査は調査時期によってデータが変わる可能性もある。
委 員	カレーなどはどんな食材を入れても良いため、食材を食べることができる。食品を無駄なく使いきることは大切。また、生産者に対して感謝することも大切。
会 長	先程は、食品ロスなど分野ごとの話をした。感謝するから食べ残さないことができる。残さないための食べ方をどう伝えるのかなど考えていきたい。資料3-4の農林漁業体験の考察の“生産者と消費者の乖離”が大きな問題になっているため、生産者と消費者の距離を縮めるような取組を行い、感謝の気持ちや食品ロスを減らすことに繋がればと思う。
会 長	② 第3次山陽小野田市食育推進計画の方向性について (資料4、5について事務局から説明) 資料4、5についてご質問、ご意見はあるか。 1点事務局に質問。資料5の第4次食育推進基本計画の重点施策について、国は「持続可能な食を支える食育の推進」の題目として“環境の輪”“人の輪”“和食文化の和”の3つを挙げている。市も同様に3つ挙げているが、“環境の輪”が“地産地消”ということか。

事務局 会長	<p>“環境の輪”が“環境への配慮”、“人の輪”が“地産地消”になる。入れ替わっているため修正を行う。</p> <p>その他ご意見はあるか。</p> <p>基本理念で“食でつながる ひとつづくり まちづくり”とある。コミュニティが家単位で横の繋がりが少なくなっているため、基本理念はこのままで良いと思う。重点施策も国に倣っており、「生涯を通じた心身の健康を支える食育の推進」については、今回の調査でも様々な課題が出たためそれに対する施策を考えていければと思う。「持続可能な食を支える食育の推進」については、第2次山陽小野田市食育推進計画の最終評価で地産地消や環境への配慮、食文化が▲（悪化）が多かったと思うので、委員の意見がなければ、この重点施策の方向性で良いと思う。</p>
	<p>(4) その他</p> <p>その他、御意見はあるか。</p> <p>(特になし)</p>
オブザーバー	<p>第3次山陽小野田市食育推進計画については、皆さんの御意見を活かしていくことが大切。県でも国民健康栄養調査が該当しており、実施している。この調査結果から日本人の塩分摂取目標量などを算出していることを、調査に協力して頂いた人に伝えると、「私も調査に協力しよう」や、「自分はどのくらいの摂取量なのか知りたいため結果はいつ返却されるのか」等の声が聞かれる。私達が行っている調査を意味のあるものにするためには皆さんの協力なしでは成り立たない。</p> <p>第3次山陽小野田市食育推進計画の調査結果で、良かった結果に目を向けると、児童生徒の適正体重、食事バランス、噛むこと、食品ロスの削減等、園や学校での給食や食育が大きい。反対に悪化している結果で気になるのが、高齢者のやせや食生活である。</p> <p>日本人の食事摂取基準が2025年に改訂される予定であり、健康日本21計画にリンクするように、生活習慣病に関連することが記載されている。内容が先々週公表されたが、新たに、フレイル予防を含めて、骨粗しょう症について明記された。地域の健康と考えたときに、園や学校、地域の連携が重要になる。会議の中でも子どもから保護者への発信も有効との発言もあった。みんなで助け合いながらこの食育計画を推進して頂きたい。</p> <p>3 その他</p> <p>(特になし)</p> <p>閉会</p>